



最初にお読みください

CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.C）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl10 (2.6.2-10)

2 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl07 から 2.6.2 pl10 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 まったく設定をしていない場合、無通信時に CPU 負荷が高くなることがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）が正しく機能しないことがありましたが、これを修正しました。
- 2.3 ポートが複数の IP サブネット VLAN に所属している場合、該当ポートで ARP の解決が正しく行えませんでした。これを修正しました。
- 2.4 プロトコル VLAN、VRRP、STP の 3 つの機能を併用したとき、ケーブルの抜き差しによってループが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.5 Private VLAN に所属しているポート（アップリンクポート、プライベートポート）は、タグ付きに設定されていても、タグなしパケットを転送していましたが、これを修正しました。
- 2.6 スパニングツリープロトコル (STP) 有効時、マルチキャストフレームが流れている環境で Topology Change が発生すると、ループが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.7 トラフィッククラスとフローグループをそれぞれ 450 個以上使っている QoS ポリシーを全ポートに適用するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 2.8 IPSADDR を条件に含むクラシファイアを 40 個以上使っている QoS ポリシーを全ポートに適用するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 2.9 SET QOS POLICY コマンドで DTCMAXBANDWIDTH、DTCMINBANDWIDTH パラメーターを指定するとエラーとなり、これらのパラメーター値を変更できませんでしたが、これを修正しました。
- 2.10 IP ルーティング時、ネクストホップルーターがダウンしているとメモリーリークが発生していましたが、これを修正しました。

- 2.11 Gratuitous ARP パケットによって ARP エントリーのポートが変更された場合、関連する IP テーブルのネクストホップアドレスを正しく更新できませんでしたが、これを修正しました。
- 2.12 OSPF 使用時、スタブエリアにおいて、隣接関係が確立している状態（Full 状態）でインターフェースのリンクダウン・アップが発生すると、隣接関係を再度確立できなくなっていました。これを修正しました。
- 2.13 BGP-4 使用時、特定アドレス宛での経路として、ルートマップの設定されている経路と、Withdrawn 状態の経路の 2 つが BGP-4 の経路表に登録されている場合、同じアドレス宛での経路情報を受信するとリポートしていましたが、これを修正しました。
- 2.14 IPv6 パケットのハードウェアルーティングを約 1 時間行くと、CPU 負荷が 100% になっていましたが、これを修正しました。
- 2.15 IPv6 ルーティング時、あるトラフィックフローの最初のパケットが他のルーターからリダイレクトされてきた場合、約 1 時間後に該当トラフィックフローのパケットをルーティングできなくなっていました。これを修正しました。
- 2.16 Mobile IPv6 (MIPv6) パケットをエラーパケット (Parameter Problem) と見なして破棄していましたが、これを修正しました。
- 2.17 高負荷のマルチキャスト通信時に PIM、RIP などの経路制御用パケットを受信できなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 2.18 SHOW IGMP Snooping コマンドの COUNTERS オプションが使用できませんでしたが、これを修正しました。
- 2.19 CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定し、なおかつ STEPVALUE パラメーターに値を指定した場合、その後 PORTMONITORING を OFF に変更して設定を保存すると再起動時にエラーが発生することがありましたが、これを修正しました。

また以下の 3 項目は、ソフトウェアバージョン **2.6.2 pl07** のリリースノートに制限事項として記載されていましたが、実際には **2.6.2 pl07** で修正済みでした。お詫びして訂正いたします。

- 2.20 VLAN 内にリンクアップしているポートが 2 つ以上ある場合、IPv6 機器を同一 VLAN 内の別のポートに移動しても Neighbour キャッシュが更新されないため、該当 IPv6 機器と他の機器との間で通信が正しく行えなくなることがあります。
- 2.21 経路 MTU 探索が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされないことがあります。
- 2.22 IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがあります。

3 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl10 には、以下の制限事項があります。

3.1 電源ユニットの LED

 **参照** 「取扱説明書」 27 ページ 「電源ユニット / ファンモジュール LED」

電源ユニット (PSU) を 2 個装着して冗長構成を組んでいるとき、本製品の起動完了前に電源ケーブルを抜き差しすると、PSU の LED 表示が不正になることがあります。電源を冗長化している場合でも、本製品の起動が完了するまでは電源ケーブルを抜き差ししないでください。

3.2 SET LOADER、LOAD コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

SET LOADER コマンドで HTTPPROXY パラメーターと SERVER パラメーターを同時に指定した場合、SERVER パラメーターの設定が保持されず、以後 LOAD コマンドが正しく動作しないことがあります。HTTP プロキシ経由でファイルをダウンロードするときは、LOAD コマンドで必ず SERVER パラメーターを指定してください。

3.3 SHOW USER RSO コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「セキュリティ」

SHOW USER RSO コマンドの「Failed logins」欄と「Last failed login」欄に値が表示されないことがあります。

3.4 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- スイッチポートのリンクアップ / リンクダウンのログが出力されません。
- SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。
- ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。

3.5 トリガー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

- CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なることがあります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

- 定時トリガー（CREATE TRIGGER TIME コマンド）と NTP を併用しているとき、定時トリガーの起動時刻と NTP の時刻取得のタイミングが重なると、該当トリガーが起動しません。これを回避するには、該当トリガーの前後に NTP を一時無効化するトリガーと再度有効化するトリガーを追加してください。たとえば、08:00 にスクリプト a.scp を実行したい場合は、次のようにします。

```
create trigger=1 time=07:59 script=disntp.scp
create trigger=2 time=08:00 script=a.scp
create trigger=3 time=08:01 script=enantp.scp
```

スクリプト disntp.scp の内容

```
disable ntp
```

スクリプト enantp.scp の内容

```
enable ntp
```

3.6 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- 電源ユニット（PSU）を 2 個装着している状態で、片方の電源の状態が変化するとき、PSU Status Change Trap ではなく Temperature Trap が送信されます。
- スイッチポート 49～52 のインターフェース統計情報を正しく取得できません。また、SHOW INTERFACE コマンド（COUNTERS オプション）の表示も正しくありません。SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドでは正しい値が表示されません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards（MIB-II）がカウントされます。
- ifInErrors（MIB-II）の値が正しくありません。単位がパケット数ではなくオクテット数になっています。

3.7 NTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。

3.8 ユーザープライオリティ 6～7 のブロードキャスト転送レート

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

ユーザープライオリティ（802.1p）6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートが 50% 程度しか出ません。

3.9 ポートトランキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- すべてのトランクポートがリンクダウンしても、トランクポートに登録された MAC アドレスが FDB から削除されません。
- トランクポートでタグ VLAN を使用している場合、本製品・対向機器ともにフローコントロールが有効な状態でトランクポートのケーブルを抜き差しすると、本製品が PAUSE フレームを送信することがあります。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- トランクポートから IPv6 パケットが転送されません。IPv6 を使用するときは、ポートトランキングを使用しないでください。

3.10 IP サブネット VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

ADD VLAN PORT コマンドで IP サブネット VLAN にポートを追加するとき、SUBNET パラメータにネットワークアドレスを指定する必要がありますが、実際には指定したネットワークアドレスは意味を持たず、常に「SUBNET=ALL」を指定したのと同様に扱われます。たとえば、次のコマンドを実行した場合、

```
add vlan=A port=1,3 subnet=192.168.1.0
```

```
add vlan=A port=2 subnet=192.168.2.0
```

ポート 3 で受信した始点 192.168.2.10 の IP パケットは破棄されると予測できますが、実際には転送されます。上記コマンドは次のように書いたのと同じ意味になるためです。

```
add vlan=A port=1,3 subnet=ALL
```

```
add vlan=A port=2 subnet=ALL
```

3.11 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

Private VLAN のアップリンクポートをタグ付きに、プライベートポートをタグなしに設定した後、設定を保存して再起動すると、エラーが発生しプライベートポートが削除されます。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、プライベートポートの設定を追加してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

3.12 スパニングツリープロトコル

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。
- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。
- スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されます。

3.13 フォワーディングデータベース

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

RESET SWITCH コマンドを実行しても、スイッチポート 49 ~ 52 上に登録された MAC アドレスが FDB から削除されません。

3.14 QoS

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

UDPSPORT を条件に含むクラシファイアを 100 個以上使っている QoS ポリシーを全ポートに適用するとリポートすることがあります。これを回避するには、最初に空の QoS ポリシーをポートに適用し、その後 QoS ポリシーにトラフィッククラスやフローグループ、クラシファイアを割り当ててください。

3.15 ハードウェアパケットフィルター

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- 「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- 「PROTOCOL=IP」だけを条件とするクラシファイアが動作しません。「PROTOCOL=IP」だけを条件とするクラシファイアをハードウェアパケットフィルターや QoS ポリシーで使おうとするとエラーが表示されません。これを回避するため、「PROTOCOL=IP」だけを条件としたいときは、次のように ETHFORMAT パラメーターもあわせて指定するようにしてください。

```
create classifier=1 ethformat=ethii-untagged protocol=ip
```

3.16 802.1X 認証

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

- PIGGYBACK=TRUE の Authenticator ポートにおいて、ある Supplicant を認証した後、PIGGYBACK=FALSE に設定を変更しても、直接認証を受けていないホスト（PIGGYBACK で通信しているホスト）のエントリーが FDB から削除されないため、引き続き通信が許可されます。
- RESET PORTAUTH PORT MULTIMIB コマンドを使用しても、未認証の Supplicant 情報はリセットされません。

3.17 TRACE コマンド

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

3.18 IP 統計情報

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。
- RESET IP COUNTER=ALL を実行しても、SNMP とマルチキャストのカウンターがクリアされません。これらをクリアするときは、「RESET IP COUNTER=SNMP」、「RESET IP COUNTER=MULTICAST」のようにカウンター種別を個別に指定してください。

3.19 ARP 解決されていない IP アドレス宛でのルーティングパケット

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ARP 解決されていない IP アドレス宛でのルーティングパケットを高レートで受信しつづけると、空きメモリーが減少し、コンソールの反応が悪くなる場合があります。

3.20 OSPF

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- 仮想リンクが確立している状態で OSPF エリアの設定を変更すると、リポートすることがあります。仮想リンク確立後に OSPF エリアの設定を変更するときは、EDIT コマンドを用いて設定ファイルを直接編集し、再起動してください。
- SET OSPF INTERFACE コマンドの PRIORITY パラメーターで OSPF インターフェースのルーター優先度を変更すると、該当 OSPF インターフェースの状態が初期化され、LSDB の交換が開始されます。

3.21 BGP-4

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

RIP 経路を BGP-4 で配布している場合、RIP 経路のメトリックが 16（無効）になっても、ただちに経路の取り消しをピアに通知しません。該当 RIP 経路がシステムの IP 経路表から削除されたときにはじめて通知します。

3.22 DNS サーバーアドレスの動的取得

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

3.23 DNS キャッシュ

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能使用時、キャッシュエントリがタイムアウトで削除されても、メモリーが解放されないことがあります。

3.24 Gratuitous ARP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録します。

3.25 DHCP リレー

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされません。

3.26 IPv6 の PING

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

PING コマンドで IPv6 のグローバルアドレスを指定し、なおかつ、送出インターフェース名を指定すると、レポートすることがあります。グローバルアドレス指定時は、送出インターフェースを指定しないでください。

3.27 6to4 トンネルインターフェース

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

- ADD IPV6 6TO4 コマンドで 6to4 トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されます。

- ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じ IP アドレスを持つ 6to4 トンネルインターフェースを複数作成してもエラーになりません。

3.28 RIPng

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「経路制御 (RIPng)」

RIPng 有効時に、IPv6 のルーティングパケットがフラッディングされます。

3.29 ルーター通知 (RA)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- SET IPV6 ND コマンドにて MTU を変更した場合、再度デフォルトの 0 に戻すことができません。その場合には、EDIT コマンドで設定ファイルを編集し、SET IPV6 ND のコマンド行を削除してください。
- SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存しても同コマンドが書き込まれません。これを回避するには、EDIT コマンドで直接設定ファイルに記入するが、再起動トリガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させるかしてください。

3.30 Neighbour キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。
- RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行すると、スタティック登録した Neighbour も削除されます。

3.31 DVMRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

- DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。
- VLAN が 1 つしか存在しない状態で DVMRP を有効にすると、不正なパケットを送信することがあります。またこのとき、CPU の負荷が高くなる場合があります。VLAN が 1 つしか設定されていない状態で DVMRP を有効にしないでください。
- いったん確立した隣接関係が解消されると、それ以降マルチキャストパケットを正しくルーティングできなくなります。

3.32 IGMP

 **【コマンドリファレンス】 / 【IP マルチキャスト】 / 【IGMP】**

Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新します。

3.33 IGMP Snooping

 **【コマンドリファレンス】 / 【IP マルチキャスト】 / 【IGMP Snooping】**

SHOW IGMPSPNOOPING ROUTERADDRESS コマンドを実行しても、本来表示されるべき「224.0.0.1」が表示されません。なお、これは表示だけの問題であり、動作には問題ありません（224.0.0.1を受信したポートは All Group の所属になります）。

3.34 VRRP

 **【コマンドリファレンス】 / 【VRRP】**

- VRRP が無効状態のときに VRRP インターフェースがリンクアップすると、その後 VRRP を有効化しても該当インターフェースでは VRRP が動作しません。
- CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定し、その後 PORTMONITORING を OFF にした場合、ポートのリンクアップ・ダウンによって変更されたバーチャルルーター優先度がデフォルト値に戻りません。優先度を元に戻すには、システムを再起動してください。
- VRRP を使用する IP インターフェースの一方がタグ付きでもう一方がタグなしの場合、正しく通信できません。VRRP を使用する IP インターフェースはすべてタグなしにするか、すべてタグ付きにするかしてください。

3.35 DHCP サーバー機能

 **【コマンドリファレンス】 / 【DHCP サーバー】**

- DHCP サーバー機能の使用中に本製品のソフトウェアをバージョンアップすると、バージョンアップ前に IP アドレス等を割り当てたクライアントからのリース延長要求に正しく応答できない場合があります。ただし、運用上は特に問題ありません。
- DHCPNAK メッセージを送信しません。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.B および Rev.C)」の補足事項です。

4.1 HTTP サーバー (サポート対象外)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

4.2 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側を同一機種 (8948XL) ・同一バージョンで構成してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

4.3 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

4.4 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

4.5 ポートランキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。
- ポートランキングは下記の機能と併用できません。
 - ・ スパニングツリープロトコル
 - ・ DVMRP
 - ・ IGMP/IGMP Snooping
 - ・ MLD Snooping

4.6 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

送信ポートの帯域制限機能（EGRESSLIMIT）と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング（WRR）は併用できません。

4.7 ダブルタグ VLAN (Nested VLAN)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

ダブルタグ VLAN (Nested VLAN) は下記の機能と併用できません。

- ・ IP サブネット VLAN
- ・ ハードウェアパケットフィルターの L3 以上の条件パラメーター（L2 は使用可）
- ・ IGMP Snooping

4.8 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、DHCP、SNMP、Telnet など、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

4.9 クラシファイアの割り当て

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

- 1 つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルターとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルターに割り当てたクラシファイアしか機能しません。
- コマンドリファレンス (Rev.B) の「クラシファイアとルール領域消費量」には、「MLD Snooping はルール領域を 2 個使用する」とありますが、ソフトウェアバージョン **2.6.2 pl07** 以降では、MLD Snooping はルール領域を 1 個しか使用しなくなりました。最新のコマンドリファレンス (Rev.C) では、本件に関する記述は修正済みです。

4.10 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

- コマンドリファレンス (Rev.B) の「ポリシーベース QoS の基本設定」 / 「設定手順例」に「通常のバケット」と「IPv6 ルーティングバケット」の 2 つの設定例が記載されていますが、これらの設定で帯域制限を行うには、以下の設定を追加する必要があります。

```
set qos trafficclass=1-3 dropbwclass3=yes
```

「通常のバケット」では手順 3 の後に、「IPv6 ルーティングバケット」では手順 5 の後に上記コマンドを追加してください。なお、最新のコマンドリファレンス (Rev.C) では、本件は修正済みです。

- 高速なポートの配下から低速なポートの配下に Ping を実行した場合、フラグメント化されたパケットをロスする場合があります。そのようなときは、次のコマンドを実行して、Tail-drop 時の最大キュー長を大きくしてください (デフォルトは 30Kbyte)。

```
set qos red=1 stop1=100k
```

4.11 ICMP メッセージ

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」](#)

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

4.12 IP 統計情報

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」](#)

本製品では、IP チェックサムエラーのバケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

4.13 BGP-4

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAX-PREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

4.14 DVMRP

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」](#)

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目) には対応していません。

4.15 VRRP

 [「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」](#)

VRRP とプロキシ ARP は併用できません。

4.16 DHCP サーバー機能

 [「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」](#)

DHCP サーバー機能とマルチプル VLAN (Private VLAN) は併用できません。

5 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
 ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

 APPLE TALK, CLNS, DHCP6, FIREWALL, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPSEC, IPX, ISAKMP, L2TP, LDAP, LOADBALANCER, LB, PIM, PIM6, PKI, PPP, PPPOE, RSVP, SA, SSL, STAR, TACACS, TACPLUS, TEST
- 以下のコマンド（パラメーター）
 COPY
 DUMP
 MODIFY
 START/STOP/SET PKT
 SHOW BUFFER [SCAN[=address] [QUEUEPOINTERS]]
 MAIL
 DELETE/SET/SHOW MAIL
 ENABLE/DISABLE MAIL DEBUG
 LOAD [METHOD={LDAP;NONE}]
 TRACE [ADDRONLY]
 PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
 [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
 SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
 [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
 PURGE FILE TRANSLATIONTABLE={ALL;UPDATE}
 PURGE PING TOTALLY

 ADD SWITCH HWFILTER ACTION={COPY;COPY,DISCARD}
 ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH DEBUG
 ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
 SET/SHOW SWITCH SOCK
 SHOW SWITCH TABLE
 SET SWITCH PORT [JUMBO]
 [SPEED={10MHAUTO;10MFAUTO;100MHAUTO;100MFAUTO;
 1000MHAUTO;1000MFAUTO; 1000MHALF; 1000MFULL}]
 ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
 CREATE/DESTROY/SET/SHOW QOS RED
 ENABLE/DISABLE QOS DEBUG

 ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER=0..299
 ADD/DELETE/SET/SHOW IP ROUTE FILTER
 ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
 ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER
 ADD/SET/SHOW IP SA

ADD/SET IP INTERFACE [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER]
SHOW IP CACHE
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
ADD/DELETE/SET OSPF NEIGHBOUR
ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP;DHCPTMP;PD} [APPINT]
[FILTER] [HINT] [KEY]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD/DELETE/SET/SHOW IPV6 FILTER
SET IPV6 PREFIX
SHOW IPV6 MULTICAST
ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
CREATE ENCO KEY TYPE={DES;3DES2KEY;3DESINNER;GENERAL}
[MODULE] [{RANDOM;VALUE}] [FORMAT={HEX;NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;
USER;UTIL}
SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

6 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.6

(J613-M0021-12 Rev.C)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0021-12 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>